
ギャラクシーエンジェル?絶対領域の扉

リース

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギャラクシーエンジェル？絶対領域の扉

【Nコード】

N9137L

【作者名】

リース

【あらすじ】

一人の傭兵は伝説の傭兵と言われ慕われていた。そこにルクシオールという戦艦を護衛と言う依頼を受けた。そこで天使たちと出会う

オリジナルキャラ紹介

名前

カイン・レオンハルト 年齢18 身長183cm 体重58kg

説明

どんな任務でも必ずこなすと言われ傭兵の中でも伝説と言われている。（本人は只、早く終わらせたいだけ）
どんな戦闘でも必ず生き延びるすべを見いだしている。

容姿

ガンダム00セカンドシーズンの刹那みたいな感じ

戦艦

インフォシーク

説明

中型戦艦であり自分の機体を入れている

主砲はレーザー砲×2

ミサイル砲×3

操縦はハロが動かしている。

乗っているのはハロとカインのみ

機体

アナザーガンダム

説明

紋章機とは違い人型の機体

ガンダムとカインは名乗っている

核エネルギーを使っているのでエネルギー切れが無い

武器

ビームライフル×2

ビームソード×4

ドラグーン

出撃（前書き）

まだ主人公たちしか出ません

出撃

とある銀河に傭兵はいた

「……ハロ、目標は？」

青年は緑色の球体に話しかけた。

ハ「モウスコシ！モウスコシ！」

緑色の球体ハロは返事を返した。

……

ハ「カイン！カイン！テキハッケン！、テキハッケン！」

ハロは青年の名前を言った。

カ「了解、上出来だ。ハロ、インフォシークは任せたぞ」

ハ「リョウカイ！リョウカイ！」

そして彼は格納庫に向かった。

カ「……さて、行こうか、ガンダム」

彼は紋章機とは違う人型の兵器に乗った。

カ「システム良好、各部システムオールグリーン、ハロ出撃だ！ハッチを開けてくれ」

ハ「ワカッタ！ワカッタ！」

カ「カイン・レオンハルト

アナザーガンダム

出撃をする！」

出撃（後書き）

次からルーンエンジェル隊を出したいと思います

始まり

とある宇宙にカインは任務に出撃した。

カ「今回も簡単な任務だ。ハロすぐに終わらせる」

ハロ「ワカッタ！ワカッタ！」

・・・

・・・

任務確認

とある惑星に海賊が留まっている。

至急に殲滅または、撤退させよ

海1「お前ら！食料や女を降りて連れて来い！」

海2「へい！わかりやした！」

と行こうとしたその時

警報が鳴り始めた。

ビーー！ビーー！ビーー！

海1「な、なんだあ！？」

海2「頭あ！敵でさあ！」

海3「センサーに反応！敵は一体です！」

海1「はん、たかが一機かよ！撃ち落としまえ！」

海2「了解でさあ！」海賊達はその一機に攻撃し始めた。

.....

カ「おっと、いきなり攻撃か

しかし、その方が俺に合っている。なら！カイン・レオンハルト！
攻撃を開始する！」

そして戦闘が始まった。

人型の機体は相手の戦艦の内に入りライフルを向けて撃った。
すると

一瞬で戦艦をピンク色のビームが貫いた。そして爆発した。

海1「ば、化けもんだ！早く殺せ！殺しちまえ！」

海2「撃て！撃て！撃てー！」

海3「当たらねー！当たらねーよ！」

戦艦は一斉射撃しているが当たる気配がない。

カ「弱いな

かわいそうだがお前らが

仕掛けた事だ。」

カ「サヨナラだ。行くぞ、ガンダム」

ガンダムは戦艦の

一斉射撃をすり抜けて

腰に刺している。

ビームソードを掴み戦艦のブリッジに刺して込んだ。

戦艦は爆発、また爆発を繰り返した。カ「さて、これが最後か、散れ」

タ「うん、本当に久しぶりだね、それで」

カ「依頼か？すまないがまだ詰まっているんだ。後にしてくれ」

タ「わ！ちょ、ちょっと待ってよ！」

カ「何だ？早く次の依頼に行かなくてはならない」

タ「わかった。」

その性格は本当に変わらないな？」

ハロ「カワラナイ！カワラナイ！」

カ「ハロ、お前まで

まあいい話は聞いてやる。」

タ「そうだね、じゃあ単刀直入に言うよ
ってまない？」

新世界^{ノイエ}NEUEに行

カ「なに？それは本当か？」

タ「うん、それでね

カインにも来て欲しいんだ。」

カ「なぜ？他にも傭兵は
幾らでもいるだろう？」

タ「でもみんながねカインがいいって言うんだよ？」

カ「・・・わかった」

タ「本当かい！ありがたいよ！
それでねカインにはルーンエンジェル隊に期限付きで入隊して欲しいんだ」

カ「ルーンエンジェル隊？新しい部隊か？」

タ「うん、ルーンエンジェル隊は

まだ経験不足なんだ。

だから君がその経験を補う役をしてくれ」

カ「わかった・・・ただし依頼を全てこなしたらそちらに向かう。
それでいいか？」

タ「わかった。ありがとう助かるよ！」

カ「それじゃあまたな・・・」

タ「うん

それじゃあカイン、ハロ」

ハロ「マタナ！マタナ！」

通信を終了した。

カ「ハロ！すぐに依頼をこなすぞ」

ハロ「リョウカイ！リョウカイ！」

そしてインフォシークは飛び立って行った・・・

・・・

そして・・・1ヶ月

カ「ハロ、ルクシオールに向かうぞ」

ハロ「ワカッタ！ワカッタ！」

カイン・レオンハルトは依頼を全てこなしルクシオールに向かって
いた。

カ「しかし、NEUE着いたのはいいがルクシオールの戦艦の形が
わからん。」

ハロ「シカタナイ！シカタナイ！」

カ「そうだな

しかし久しぶりにアップリユートABSOLUTEに行ったらミルフィーに会った
な」

・・・・・

・・・・・

ABSOLUTE内

カ「ふう〜やっと着いたな」

ハロ「ツイタ！ツイタ！ミルフィー！ミルフィー！」

カ「ハロ、気が早いぞ？」

ミ「あ！見つけた！久しぶりですね〜！

カインさん！」

カ「久しぶりだな、ミルフィー
元気だったか？」

ハロ「ヒサシブリ！ミルフィー！ヒサシブリ！」

ミ「はい！元気いっぱいですよ！ハロも久しぶり！」

カ「ところでタクトから聞いてないか？

俺達がNEUEに行くの」

ミ「はい聞いてますよ！今すぐに開けますからね！」

カ「すまないな：疲れているだろ？」

ミ「いえ！大丈夫ですよ！」

カ「そうか、ありがとう」

カインは綺麗な笑みを浮かべた。

ミ「／／／／／／／／／／」

カ「ん？大丈夫かミルフィー？顔が赤いが？」

ミ「だ／／、大丈夫ですよ／／／／／」

ハロ「ミルフィー！カオアカイ！カオアカイ！」

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

カ「そろそろ行くよミルフィー」

ミ「そう・・・ですわかりました。」

ハロ「ワカッテナイ！カイン！ワカッテナイ！」

カ「なにがだ？ハロ」

ミ「ハ、／／／ハロ／／／」

カ「ん？分かん？」

・
・
・
・
・
・

ミ「カインさんまた、会えますよね？」

カ「ああ、しばらくはルクシオール護衛だからな」

ハロ「マタナ！マタナ！」

ミ「はい！それじゃまた！」

カ「ああ、またな」

そしてABSOLUTEを抜けてNEUEに向かった。

ミ「また・・・会えますよね？カインさん」

インフォシーク内

カ「さて早くルクシオール見つけるか？」

ハロ「リョウカイ！リョウカイ！」

・
・
・
・
・
・

カ「どこにいるんだ？」

途方にくれていたその時

ピリリリ！ピリリリ！

ハロ「ツウシン！ツウシン！」

カ「ハロ、スクリーンに移せ」
スクリーンが表示された。

タ「やあ！カインもう着いた？」

カ「ああ、しかしルクシオールが
どこに居るか分からん」タ「教えてなかった？」

カ「お前……着いたら覚えてろ」

ハロ「タクト！オボエテロ！オボエテロ！」

タ「はは、それは勘弁してくれ、

ココ、このポイントにデータを送ってくれ」

コ「了解です。マイヤーズ司令
カインさん、このポイントに来て下さい」送られてきた。データ
を見た。

カ「わかった、すぐに向かう。

ハロこのポイントに向かうぞ
じゃあタクト後でな」

タ「ああ、待ってるよ」
そして通信を切った。

カ「行くか、ハロ」

ハロ「リヨウカイ！リヨウカイ！」

インフォシークはルクシオールがある
ポイントに向かった。

•
•
•
•
•
•

- ル
- ク
- シ
- オ
- ー
- ル
- 内

タ「さてカインも来てくれるし
これで一安心だね」

コ「そうですね、久しぶりですから楽しみです。」

夕「それに、新人が来る。
からね？ 今日だっけ？」

コ「はい、そうですね」

タクトは資料を見た。

タ「カズヤ・シラナミか男のエンジェル隊員は初めてだね」

コ「確かに初めてですね？」

タ「さて、楽しみだな〜！」

•
•
•
•
•
•

-
-
-
-
-
-
-

合流（前書き）

大変遅くなってすみませんでした！
ちゃんと書けているかわかりませんが見て下さい！

合流

シャトル船室

僕の名前はカズヤ・シラナミ、デザート職人だった僕はなんと！ルーンエンジェル隊に配属することになった。

カズ（ようやく到着だ…。あれが調査部隊の船 E D E Nの最新鋭艦、ルクシオールか…ずい分大きいな。）

カズ（これから、あそこで暮らすわけか…。）

カズ（それにしても、本当にデザート職人だった僕がルーンエンジェル隊に選ばれるなんてね。）

カズ（しかも、ボク以外は全員女の子！ラッキー！……とも言えないか…。一応これで、軍属になっちゃったワケだし…。）

カズ（訓練はかなりキツかったりなあ…。厳しい教官だった…。さすが、元ルーンエンジェル隊リーダー…フォルテ・シュトーレン…。）

フォ「ん…？なんだい、カズヤ？」

カズ「え！？ボ、ボクは何も言ってないですよ？」

フォ「なんだ、そうかい？呼ばれた気がしたんだけどねえ？」

カズ（す、鋭すぎる！）

フォ「しかし、いつ見てもデカイ船だねえ…。ルクシオールってのは…。あたしの頃とはずい分と違っちゃったねえ…。」

フォ「あいつらとも、しばらく会ってないし…フォ「みんな、それぞれの場所でよろしくやってるだろうさ。そういや退役したヤツもいたっけ…。」

カズ「みなさん、E D E Nにいるんですか？」

フォ「いや、なんだかんだで、ほとんどこっちに…。N E U Eにいるねえ…。いないのは、ミルフィー…とアイツぐらいかねえ」
カズ「アイツ？誰ですか？」

フォ「アイツはね…カイン・レオンハルトって言ってねえ、傭兵なんだけどね？ アイツはメチャクチャに強くてね、よく活躍してくれてたよ」

カズ「へえ…そんなに凄い人なんですね！」
フォ「カインは傭兵だし、ミルフィーはゲートキーパーだからね、A B S O L U T Eにいるよ。」

カズ「ゲート…、キーパー…？えっと…、ミルフィーさんってたしか、ボクを選考した人ですよね？」

フォ「選考お？大量の書類からあてずっぽでピッと一枚引いただけさ。選考とは言わないねえ、あれは。」

カズ「やだなあ、冗談ですよ？」

フォ「冗談なもんかい。あたしは、その場にいたんだよ？」

カズ「え…、あ…。そ、そんな選び方だったんですか？信じられない…。」

フォ「いや、信じられるのさ、ミルフィーだからね。」

カズ「え？　　どういふことですか？」

フォ「ふふ、まあいいさね。とにかくカズヤ…、おまえさんが選ばれたことには間違いなく意味があるのさ。それは成すべきことを成していけばいずれ分かること。今は余計なことは考えなくていい。」

カズ「は、はあ…。」

フォ「なんだい、気合いのない返事だねえ…。シャンとおし！シラナミ少尉！起立！」

カズ「あ！は、はい！う！ベルトが！？」

フォ「グズグズしない！」

カズ「は、はい！カズヤ・シラナミ！起立しました！」

フォ「ルクシオールに敬礼！」

カズ「はっ！」

フォ「いよしっ！あははは！それでこそあたしの教え子だ。お……？」

どうやらルクシオールに着いたみたいだ

カズヤ視点 END
カイン視点

インフォシーク内

カイ「ハロ、そろそろ着く頃か……?」

ハロ「モウスコシ!モウスコシ!」

カイ「ポイントはここら辺なんだか?あれか?ハロ通信頼む。」

ハロ「リョウカイ!リョウカイ!」

・
・
・
・
・
・
・

ルクシオール内
ピピピピピ!

ココ「マイヤーズ司令、通信です。」

タク「わかった。通信、開いて」

カイ「タクト、今お前の艦と合流する。」

タク「え!もう来たの?案外早かったね。わかった。済まないけどこっちにきてくれないかな?」

カイ「ああ、わかった。」

タク「じゃ頼むよ。」

・
・
・
・
・
・

インフォシーク内

カイ「行くぞ、ハロ」

ハロ「ワカッタ！ワカッタ！」

ルクシオール内

ココ「マイヤーズ司令、レーダーに反応インフォシークです。」

タク「来たか、ココ、オレは格納庫に行ってくる。」

ココ「了解しました。」

インフォシーク内

カイ「ハロ、インフォシークは任せる。ルクシオールに行ってくる。」

ハロ「リョウカイ！リョウカイ！」

カイ「久しぶりにあの紋章機で行くか、ハロ、ガンダムは置いて行く整備は任せた！」

ハロ「ワカッタ！ワカッタ！イッテコイ！イッテコイ！」

カイ「さて行くか、ソウルエンペラー出撃する。」

・
・
・
・
・
・

ルクシオール内

タク「やあ！カイン久しぶりだね。元気だった。紋章機で来てくれて」

カイ「ああ、久しぶりだな。タクト」

タク「来てくれて早速だけどブリッジに行こう。」

ブリッジ

カイ「なるほどこんな風になっていたのか」

タク「そうさ、中々だろ。」

ココ「久しぶりです。カインさん」

カイ「ココか久しぶりだな」

ココ「そうですね、お久しぶりですね
ココ「そうですね」

カイ「それと、前にも言ったが敬語はやめてくれ、ココの方が年上だろう？」

ココ「それは、そうですけどカインさんは何故か私より年上に見えてしまっ？」

タク「たしかにカインは、他の人から見ると年上に見えそうだし、」

カイ「そうか？別にいいが…それはそうとエンジェル隊の事を教えてくれないか？」

タク「そうだったね、ココ、エンジェル隊をブリッジに召集してくれ」

ココ「分かりました。」

放送をして少ししてから

??「エンジェル隊、集合しました。」

少年か…それと女の子が三人

タク「紹介するよ、これが新しいエンジェル隊だ。」

カイ「そうか、彼らがまだ若いな…」

タク「キミも、十分に若いじゃないか？」

カイ「俺はいいんだ、実戦経験の事だ。」

??「あの…マイヤーズ司令この人は…？」

タク「ああ、紹介するよ、彼はカイン・レオンハルト、傭兵をして

いるんだ。昔のエンジェル隊にも護衛をしてくれてたんだ。それと今日から仮としてルーンエンジェル隊に入隊してくれるんだ。」

?? 「そうなんですか！ボクの名前はカズヤ・シラナミ少尉です。よろしく願います。」

カイ 「ああ、宜しく頼む。」

?? 「私はアプリコット・桜庭少尉です！宜しく願います！」

カイ 「桜庭？ひょっとして君は…ミルフィーの？」

リコ 「はい！お姉ちゃんからお話は聞いています。」

カイ 「そうか…俺も君の話は聞いているよ 元気いっぱい姉思いのいい子だって」

リコ 「本当ですか？ありがとうございます！」

?? 「ナノナノ・プディング少尉なんだ！よろしく願うのだ
！」

カイ 「ああ、ヴァニラから聞いている。ナノマシン集合体何だろう？」

ナノ 「そうなのだ！ケガとかしたらナノナノに任せるのだ！」

カイ 「分かった。よろしく頼むよ」

?? 「私はカルーア・マジヨラムと申しますわ、よろしく願うい

たしますわ。」

カイ「よろしく頼む。見たところ君は…魔法使いか？」

カル「まあ、良く分かりました。はい私は魔女ですわ。」

カイ「そうか、たまに話を聞かせてくれ」

カル「分かりましたわーそれと一つ聞きたい事が」

カイ「なんだ？」

カル「魔女が怖いとかありませんか？」

カイ「ああ、そんなことか大丈夫だ…君以上の相手をしたことが依頼とかであるから」

カル「そうですか…良かったです！」

タク「自己紹介は終わったね、よし！カイン今からオレのオフィスに来てくれ。」

カイ「分かった。みんなまた後でな」

カインたちはブリッジに出て行った。

ココ「エンジェル隊はもう解散してもいいわよ」

カズ「わ、分かりました。それじゃ」

・・・

オフィス

タク「さて、エンジェル隊は後一人メンバーがいるんだか今は居ないんだ。済まないな」

カイ「別にいい、さて俺は具体的に何をすればいいんだ？」

タク「まあルクシオールの護衛もあるし主に実戦かな？」

カイ「分かった。今回は紋章機で行かせてもらおう。ガンダムは整備中だからな。」

タク「それで、十分だよ。これで手続きは終わりかな？」

カイ「そうか、なら俺はソウルエンペラーの整備をする。久しぶりに乗ったからな」

タク「分かった。けどその前に艦内を案内をしたいからそうだ！ちよっと待ってて オフィスからアプリコット・桜庭少尉すまないけどオフィスに来てくれないか？」

少ししてから…。オフィスの扉が開いた。

リコ「アプリコット・桜庭入ります！タクトさんどうしたんですか？」

タク「あのね、カインに船艦の案内をしてほしいんだ。一応カインも船艦は持っているけどこっちに住むからね」

リコ「はい！わかりました。レオンハルトさん今から案内します。それじゃタクトさん」

タク「ああ行つてらっしゃい、それとカイン、リコの案内と整備が
終わったら、オフィスにまた来てくれ。」

カイ「ああ、わかった」カインたちはオフィスを後にした。

合流（後書き）

見てくれた人ありがとうございます！
誤字があつたら注意をお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9137/>

ギャラクシーエンジェル?絶対領域の扉

2010年10月21日12時20分発行